

文部時報

昭和五十九年三月
第一二八二号

第一〇一国会(特別会)における文部大臣の所信……………70

特集 ■ 文化財の保護

文化財の保存と活用についての所感二題……………坂本 太郎 4

▽座談会
文化財の愛護と学習……………9

(出席者) 山岡 俊明・土田 直鎮・田原 久

加藤富士彌・(司会) 森脇 英一

地域における文化財の保存と活用……………児玉 幸多 23

文化財の保存と科学……………西川杏太郎 29

▽解説

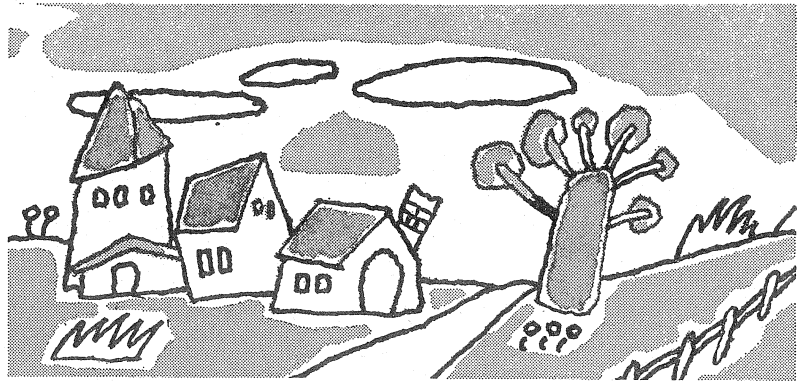
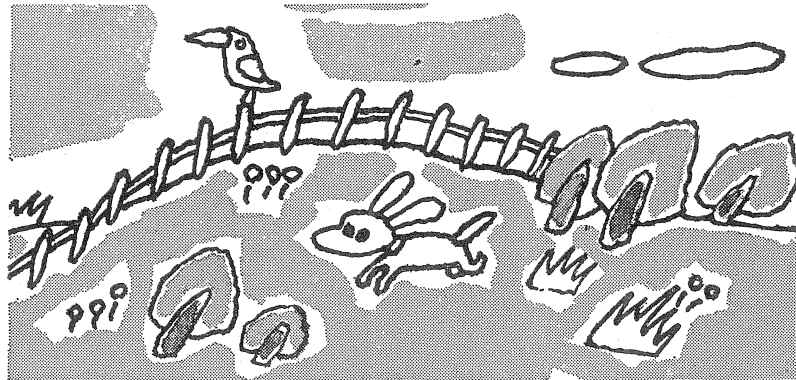
国立能楽堂と国立文楽劇場の開場

……………文化庁文化財保護部無形民俗文化課 36

東京国立博物館資料館について……………原田 実 39

京都文化資料研究センターと文化財修理所……………中村賢二郎 42

文化財愛護活動事例紹介……………46



一 小学校でとり入れた生活伝承や文化財学習……………46

二 郷土の文化遺産の保護と啓発……………53

▽ルポ・文化財を支える人々

檜 皮 葺……………後藤佐雅夫 57

歌舞伎のかつら・床山……………浅原 恒男 61

▽資料

国指定文化財件数……………65

都道府県指定文化財件数……………66

市町村指定文化財件数……………67

公立歴史民俗資料館・埋蔵文化財調査センター設置状況……………68

文化財関係研修・講習等一覧……………69

コンピュータ・ソフトウェアの法的保護について……………76

……………文化庁文化庁著作権課

▽シンポジウム

青少年の健全育成と地域社会の役割……………85

■文部時報昭和五九年度

特集テーマ一覧……………22

文化財紹介 ●成田山新勝寺三重塔

名作シリーズ ●春雨 (長谷川良夫)

(解説) 小林 忠 84

表紙 小林敏子 カット 内部敬生

檜皮葺

反りや照り、そして起の美しい曲線と、植物独得の優しさをあわせ持つ檜皮葺の屋根は日本建築の中でも世界に誇りうる傑作の一つである。

檜皮で葺く屋根は七世紀からみられ、一二〇〇年以上の歴史をもつ。現在、国が国宝や重要文化財に指定している建造物のうち、約三割は檜皮葺であるが、今後の国指定や都道府県、市町村の指定文化財を加えると、その数は益々増大していくにちがいない。

このような檜皮葺屋根が伝統的な保存技術保存団体の人々によって支えられていることはいうまでもないが、仕事の内容は、作品の優雅さに反して極めて地味であり、しかも根気と長年の鍛練を必要とする。また、業界全体を通じて数も減

少し、きびしい条件にさらされている。

二〇年ぶりの大雪に見舞われた日、檜皮の里、兵庫県山南町を訪れ、檜皮葺師村上栄一氏、原皮師前田信次氏、竹釘製造の石塚芳春氏にお話をお聞きした。

山南町は大きな産業もなく、山に囲まれた地方である。檜などの樹木が豊富であり、このような土地柄を反映して以前から「檜皮の里」と呼ばれている。戦前には葺師八〇名、原皮師七〇名を数えたという。現在、葺師一三名、原皮師六名が従事している。また石塚氏は全国で唯一の竹釘製造を営んでいる。

山南町での檜皮業は、江戸時代から主に京都方面に出稼ぎ

後 藤 佐雅夫

にいくことによって始まったと伝えられている。

葺師の村上氏は二代目で息子さんも葺師の技術を習得中である。仕事の八〇％は国指定文化財の修理工事であり、村上氏は京都府を始め、全国に足を延ばし工事を受注している。一般に屋根葺業者は零細で、経営者が経営面の仕事をするともに、技術者としても工事に携わっている。

村上氏は自ら仕事をする傍ら、七名の従業員を常に働かせるだけの仕事を受注するとともに、工事に必要な材料を確保しなければならない。現在の仕事量は、指定文化財の葺工事を中心に、従業員に応じた量が確保できているようである。しかし、最大の問題は、原材料の不足である。

元来檜皮は、生産量自体がきわめて少なく、しかも戦後は山林の減少に加え、檜皮をとる技術者が減ったため、檜皮の生産量は、随分減少している。

村上氏の方では、檜皮の質がよく、生産量の多い地元、丹波地方から所要量の大半を仕入れているが、不足分は原皮師の前田氏に依頼し、他の地域のもので確保していかなければならない。全国的にみた場合、葺師は不足ぎみで、さきに文化庁が行った調査によれば、六〇代、七〇代の技術者が断然多く、一〇代や二〇代の若者はきわめて少ない。このままでは後継者がなくなるのではないかと懸念から、一〇年前に社団法人の全国社寺等屋根工事技術保存会(三八社)が主体と

なり、文化庁の補助を得て技術者の養成にのり出した。更に、昭和五七年には、兵庫県山南町篠場にお年玉付き年賀状の収益金八〇〇万円の補助を受けて、総工費一〇〇〇万円で鉄骨モルタル塗り二階建ての技術研修センターが完成した。そして、従前は、奈良県桜井市で行われていた養成事業は、完成と同時にこの地に移り、当初四名の研究生が受講した。五九年度は六名の受講者が内定している。

村上氏は、研修所の所長も兼ねており、後進の指導にあたっている。しかし、研修所を卒業しても、一人前の技術者になるためには最低五年の修業が必要で、しかも先輩の仕事を見習いながら、体得していかなければならないだけに並大抵ではない。

檜皮葺を行うためには、原皮師から皮を購入し用途によって皮拵えをしなければならない。材料の下拵えは大変手間のかかる仕事で屋根を葺く仕事の二倍の時間をみなければならぬ。皮拵えとは、仕入れた檜皮から硬い表皮をとり、さらに二枚、三枚とはぎ、一定の寸法にまとめる仕事である。

工程は軒付から平葺へと進めていく。まず蛇腹(襷の赤味材)ないし裏板を裏甲等に取付け、その上に軒付用檜皮を順番に積み上げる。軒付完了後、水切銅板を入れ上目皮、平葺と所定の葺足で葺いていくが、止釘は主に竹釘を用い、要所を鉄釘で止めていく。葺く前に皮を水につけて使用するた



檜皮葺作業の様子

め、冬期には手が凍るような冷たさである。

檜皮葺には欠かせない原皮を採集している原皮師前田信次氏は七一歳の高齢であるが良質の皮を求めて丹波、山城、伊賀、南河内方面まで歩き回るそうである。この原皮師(通称むきぎ)前田氏の話によると、

近年は原皮を採取させてくれる山林の所有者が減り、檜の山林そのものも減少しているために、原皮師の数は極端に少なくなっているそうであり、文化財の保存にも影響がでているという。

原皮師の作業は、ざっと次のとおりである。

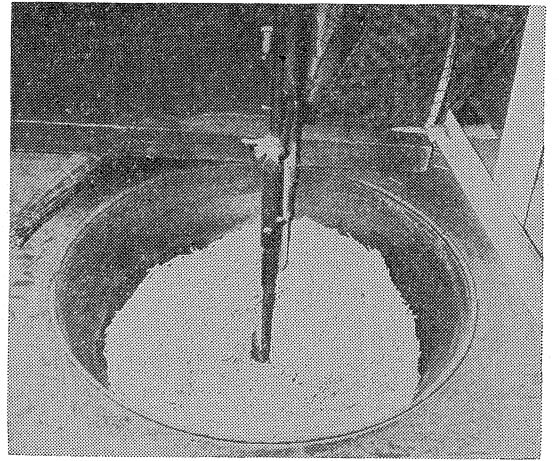
自生している檜で樹齢五〇年以上の通称「鬼皮」を七月の土用から翌年三月までの間に、樹皮の甘肌と鬼皮の形成層を



檜皮を剥ぎとる

一枚残し、その部分に篋(へら)を入れて破り、順次下部よりめくりあげながらロープを巧みに使い、上方へ剥ぎとり、最後に腰に付けた「鉈」で切り落とす。

剥ぎとった長いままの檜皮は何枚も丁寧に重ねながら、定尺(七五〇)もの一束(三二キログラム)になるよう結束する。通常五束「一駄」(一六〇キログラム)として取引し、檜皮師に納める。この仕事は重労働のうえに作業が難しく体力的には、能率のあがる年齢は四十歳位までで、その後は仕事もはかどらない。しかし、腕の方はこの頃から上達してくるので、老人になっても仕事は続けなければならない。この仕事



竹釘の製造

は自由自在に木を昇りながら身軽に作業が出来なければならないが、木昇りだけで三、四年の修業が必要とされる。剣ぐ時に、木の甘肌を傷つけず、紙一重残して篋を入れる技術を習得するまでには四・五年かかり、その割に収入が少ないことも、原皮師になる人を少なくしている理由の一つであるという。

檜皮葺、こけら葺等に必要な竹釘を製造しているのは全国

で石塚氏^{ただ}唯一人である。石塚氏は二代目で、以前はすべて手作業であったが、氏の考案された機械によって随分と楽になったようである。

まず始めに長さ一メートル、直径一五センチの孟宗竹の節廻りを削ってから、幅三センチの小割りにして荒削の機械にかけ、更に仕上げを行い、ひご状にしてから所定の寸法に裁断する。年間七〇箱（一箱三〇キログラム）を製造するが、このためには、良質の竹と後継者が必要である。幸い京都府宮津市から、現在はコンスタントに竹を入手出来、今は自動車会社に勤める息子さんが将来は石塚氏の跡を継ぐそうである。

京都は一〇〇〇年以上の政治・経済・文化の中心であり、現在でも質、量ともにすぐれた文化財が残されている。

それらの文化財を支え、守る仕事は多種多様である。本稿でとりあげた檜皮葺は、その一例にすぎないが、一人でも多くの方々に労苦の一端を認識していただければと考え紹介することとした。

（京都府教育委員会指導部文化財保護課修理係長）

歌舞伎を支える人々

歌舞伎のかつら・床山

— 伝統芸術を陰で支える職人魂 —

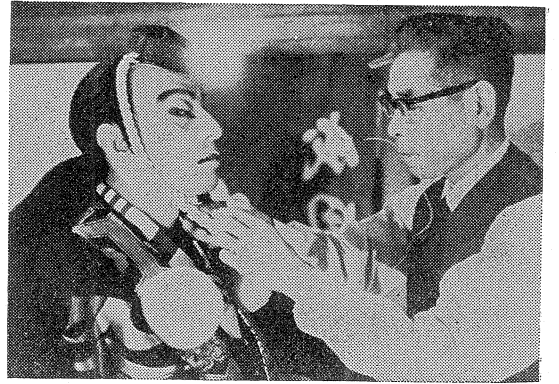
歌舞伎は「役者の芸術」だと言われる。これは歌舞伎の本質をついたものであるが、その一方でまたこれ程沢山の裏方に支えられている芸術は他に無いとも言えよう。大道具はもとより、小道具にしろ衣裳にしろこれを製作する人たちまで入れると、夥しい人数の裏方が陰で歌舞伎を支えている。そうした中でもかつらは、他の道具・衣裳類と違い、一公演が終わるごとにバラされ、同じ俳優が次に同じ役を演じる時でも、その都度全く新たに作られることになっている。それと言うのも髪型はいわば俳優の身体の一部であり、後に記すようにその時々微妙に変化する生きものである。したがって歌舞伎の千変万化する髪型の伝承は、一に床山の腕ひとつにかかっている、と言っても言い過ぎではない。

浅原恒男

かつらと床山

歌舞伎のかつらは現在、東京と大阪に一軒ずつ残るかつら屋でまかなわれている。小林演劇かつら株式会社と、野田福かつら店である。このかつら屋の職人たちが公演の前に俳優の頭に合わせて赤銅で台金をつくり、これに一本一本毛を植え込んだ羽二重を貼りつけて、かつらの土台を作る。勿論手づくりで、大変な手間と技術を要する作業である。これを床山^{あしやま}へ渡し、床山が髪を結い上げて仕上げるのである。

床山は立役（男の役）専門と女形専門とに分かれていて、それぞれ鴨治床山K・Kと有限会社光峯床山で担当している。鴨治床山は鴨治虎尾氏が、光峯床山は大沢峯松氏が、それま



「勸進帳」の弁慶に扮する11代目市川團十郎丈と鴨治虎尾氏

んら一〇名をひきいて女形の床山をつとめている。歌舞伎のかつらは多い時で一公演一〇〇枚以上あり、国立劇場、歌舞伎座の公演はもとより、都内や名古屋、大阪、京都の各劇場や地方巡業までであると、その数たるやばう大なものとなる。その全てを、これだけの人数の床山さんが結い上げているのが現状である。

で徒弟制だったこの世界をまとめ近代的な給料制を導入し、戦後に会社組織に改めたものである。鴨治氏は現在現場から退き、鴨治床山は二人の息子さんと那須さん折橋さんなど約二二名が立役の床山をつとめている。大沢氏は今も現場にあって、息子さん、三浦さ

歌舞伎の床山の基本

歌舞伎の髪型は数え切れぬくらい種類が多く、ひと口に二〇〇とも三〇〇とも言われるが、正確なところは判らない。微妙な点が多いからである。

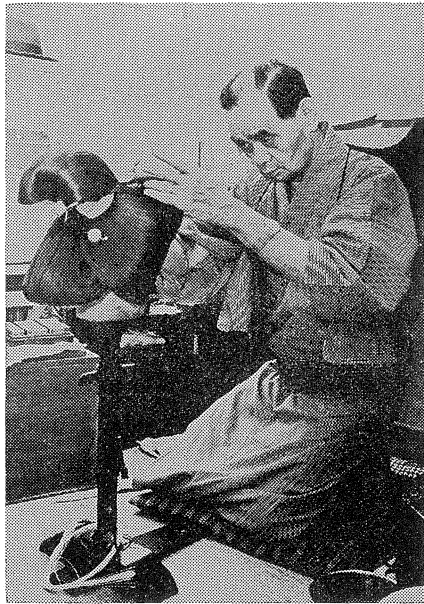
立役のかつらは大別して、髷の有るのと無いのと、つまり後頭部の毛を張り出すものと、張り出さずに油で固めて研ぎ出すものとに分けられる。前者を袋付、後者を油付と称し、袋付は世話物の町人・男達・遊び人や相撲とりなどに、油付は時代物や世話物の武士などに用いる。髷と鬘（頭の左右側面の毛）を一束にまとめ元結一本で髷を結うのが、立役の結髪の基本である。どんなに複雑な手のこんだ髪型も、この元結一本で仕上げるというところに、立役の結髪の難しさがあると言われる。それもやたらと油で固めず、なるべくサラッと水

髪其自然な味わいを大切に仕上げることにによって粹とか色気を出すのが世話物の髪には大切で、この基本がしっかり出来なければ時代物の油付の結髪も生きてこない。

女形の方は立役ほど種類は多くないが、複雑なこと、非常に繊細な点に神経をつかうところが立役にはない難しさである。その上に役柄に応じた品格や色気がなくてはならない。女形のえも言われぬ雰囲気を出すには年が必要である。

芝居に於ける結髪の難しさ

同じ髪型も芝居の役どころによって違ってくる。例えば文金島田でも『鏡獅子』の弥生は御殿のお小姓なので丸髷の文金で、『娘道成寺』の花子は丸髷の中島島田で飾りをいろいろつける。更に同じ狂言の同一人物でも場面の雰囲気によって髪を変えることがある。『御所五郎蔵』の五郎蔵は、仲の町出会いの場が「七本車髷ののんこ」、縁切りの場は「本毛髷ののんこ」となる。前が時代があった派手な場面、後が世話がかった沈うつな場面だからである。もっと細かいのは

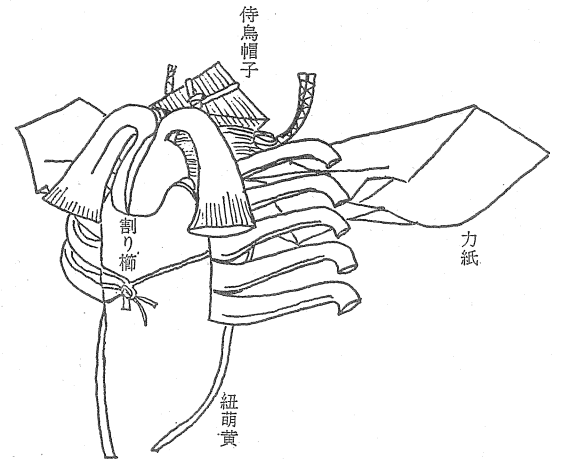


女形の髷を結う大沢峯松氏



市川門之助丈に髷をかける大沢氏

『寺子屋』の松王丸の「五十日髷」で、全く同じものに見えるが、前半と後半で衣裳を替えるのに合わせて微妙に違う二つのかつらを使い分けている。こうした細かい配慮が奥深い味わいを生むわけで、床山は歌舞伎狂言の全てに通じ、役の性根を究めると共に、衣裳や俳優の芸風、好み、癖にまで神経を配る必要がある。これら全ての点で秀れた床山は、古典はもとより新作や復活狂言に際し、実に創造的な役割を果たすので、この道一〇年でやっと半人前、あとは一生修業といわれるのももっともと言えよう。それだけにまた、後継者の養成は深刻な問題である。



「暫」鎌倉権五郎景政油付簪、油込の前髪五本車翼

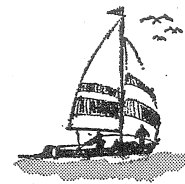
後継者難と材料入手の困難——今後の課題——

現在の歌舞伎興行のシステムは床山に休みを与えてくれない。絶対数の足りない上に、常に翌月の仕込みに追われる仕事は現今の若者には耐えられないようで、新しく入って来ても途中でやめてしまう人が少なくない。もうひとつの悩みが材料難で、かつらの毛は主に人毛だが、殆んど中国からの輸

入に頼らざるを得ない。日本人が日本髪を結わなくなつて、良質の人毛はもとより、元結や飾りものにも良い品が乏しくなつて来ている。今のところ化学製品で代替できるものは少なく、歌舞伎の深い味にふさわしい素材を求めることは大変な苦勞である。これ程の苦勞を払ってまで床山さんたちを仕事に打込ませてきたものは歌舞伎が世界に誇る我が国の文化財であり、この見事に洗練されつくした芸術の一端に携わることになりと生き甲斐を見出してきたからに他ならない。

豪放な力感みなぎる『暫』の五本車翼、江戸文化の粋とも言ふべき『助六』の生締、あるいは女形の絢爛たる伊達兵庫、匂い立つような文金島田等々、歌舞伎のかつらは文字通り生きた芸術と言つても過言ではない。それだけに今後の国の歌舞伎保存、育成への配慮がこうした裏方さんたちにまで行届くようになって欲しいと願わずにはいられない。

(社団法人日本俳優協会事務長)



特集 文教施策の進展

概 観

初等中等教育

高等教育

私 学

社 会

体育・スポーツ

文 化

学術研究

国際交流・協力

基礎資料

▽文化財や地域の歴史の学習は、学校教育、公民館その他の社会教育施設の事業などのいろいろな機会、場を通して行われているが、中でも文化財等の収集、保管、展示等を行っている博物館の役割は大きい。従来の博物館は展示物を見るだけの場であったが、触れて動かせるコーナーの工夫や〇〇講座、教室の盛況ぶりから、自らが能動的に学習する場になりつつある。

▽博物館に展示されていたり、国や県などに指定された文化財だけでなく、それぞれの地域にある日常見落としがちで、それこそ路傍の石仏から地名あるいは古老の話、伝説などにも目を向けてみることも、先人の築いた文化を理解するのに肝要である。

▽千葉県佐倉市の我が国唯一の国立の歴史博物館である「国立歴史民俗博物館」が開館してやがて一年になる。単に社会教育的な博物館という使命だけでなく、国立大学共同利用機関として学術研究を行う使命も持っていることから、考古学や民俗学等の最新の研究成果を展示にとり入れている。展示も概説的なものでなく、昔からの日本人の生活の姿について各時代時代に密着した問題を個別的に打ち出しているの

で、入館者各自がその人なりに日本の歴史に対する理解を深めることができる。(企画室)

MEJ 61 月刊 「文部時報」 3 月 号 第1282号

文 部 省

昭和59年3月5日 印刷
昭和59年3月10日 発行

著作権
所 有

発行所 株式会社ぎょうせい

定 価 2 5 0 円 (千50円)

本 社 東京都中央区銀座7丁目4番12号
(郵便番号 104)
(営業所) 東京都新宿区西五軒町52番地
(郵便番号 162)

年間購読料 3 0 0 0 円 (千共)

電話 東京 (268) 2141 (代表)

振替口座 東京9-161番

印刷所 株式会社行政学会印刷所

・ただし、増大号、臨時号の場合は別に代金を申し受けます
・なお、購読のお申し込みは直接営業所またはよりの書店をお願いします